

海 (かいし) 市 No. 2

●詩

02 前田 勉 夢 想

●エッセイ

07 片津 森 秋の一日、白神岳へ

11 佐藤 ただし 鳥日記
(8月19日～11月30日)

29 横山 仁 雑 記 (2)

夢 想

前
田
勉

高熱にうなされながら

昼と夜

寸断されてゆく時間を見ていた

まるで

破断しなさくれだった劣化テープのようで

私の

前と今と後ろが結びつかない不合理に
苛立った

それまで

意識することもなく時間が重ねられ

どこかしこで

誰かとつながってきたように

ここに在ることすべてに

その位置付けを

不器用にも

配置させようとして戸惑っている

そうしなければならぬ必然性はないが

そうでなくともいい

とも

言い切れず思い切れず

時間が迫ってくる重さや色合いに

同化されそうになってあらがっている

のか

夢は断章的に延々と続いて

終わることを知らず

私の所在が不明なまま

身体が浮いてゆくのを感じていた

ここにいるよ

俺はここにいる

ふんわり

と

逃れて

ここ

に

いるよ

時間は刻まれていた

前と今と後ろが繋がらないまま

届かない本質への苛立ちとさがらない体熱

みんな

内面を隠しこんで

カウントダウンのタイマーが刻まれていた
幼少時の麻疹熱の時のようにも似て

布団と汗と熱に

なぜか心地よささえ感じていた

数日のうちの

何時間かが欠けていた

そのことが見えたのは

仰臥した私が

天井の板目の年輪を数え上げていることに

何気なく気付いたときであった

たったそれだけのこと

正転反転を繰り返す

ようやく目覚めた

とき

で

あった

ことらるよ
俺はことらる

秋の一日、白神岳へ

片 津 森

登山口下の広い駐車場に二台の車が先着していた。八戸ナンバーの車から下りてきた四人連れのなかから関西弁が聞こえた。八戸方面の人が関西の人たちを案内してきたのだろう、日本二百名山の本州最北の山にそう思いながら、彼らが出発するのを見送った。

隣りでは甥が身支度をしている。五年前、二人で来た時には、途中で彼が不調を訴えたので無理をせず下山したことがあった。今日は心配なさそうだ。

駐車場に付設された休憩所には、白神岳への二股コースは、途中の歩道が崩れていて通行禁止になっていると張り紙があった。白神岳と同じ尾根沿いにある大峰岳付近で、疲労のため動けなくなって遭難した人

がいたという張り紙もあった。大峰岳方面へ行く十二湖コースへの縦走はきつとハードなのだろう。

八時半、休憩所の上にある登山口で甥が登山届を記入している。今日もいい登山ができますように。

三十分後、二股分岐であの四人連れに追いつき、そのまま先行して左の蛭山まてやまコースを行く。さらに三十分後、「最後の水場」では真鍮製の重い柄杓で清水を飲んだ。ブナが高い。間もなく急登。やがてマテ山分岐に着く。さつき四人連れに追いついた時に、指導標に刻まれた「蛭山」の「蛭」の意味を聞かれたが分からなかった。イナゴは「蝗」だったしなあ。漢字のつくりが「聖」だ。聖なる虫・・・か、どんな虫だろう。小休止の後、路は平坦になり、下りさえある。標高が高くなるにつれてブナの枝先についた葉の数が少なく、寂しくなってくる。それでも陽は高く上り、木のない稜線がくつきりとスカイラインを作っている。

この前引き返したのはどの辺だったつけ、と声をかける。確か、あと四十分で頂上だと叔父さん言っていた、と甥。えっ、そうか、それ違うな。そんな先までは進んではいなかった。行ってもせいぜい残り一時間

半といったあたりでなかったか、ちょうどこの辺り：と自分のいい加減さに呆れたが、五年も前のこととこだわりのなく、さつさと進んでゆく。

気がつくともう樹林帯を抜けていた。立ち止まって振り返ると日本海が広がっていた。海は一面青く風いでいて、のんびりした気分になる。今朝から登ってきた山を見下ろすと、起伏もこんもり豊かに、秋の浅い橙や木の幹の灰色や針葉樹の緑を浮きあがらせている。今日来てよかった。再び山頂を目指す。北へ分かれる十二湖コース分岐を過ぎ、路は両側にササが繁る明るい高原道だ。ただ、この季節だから何の花も咲いていない。

ちょうど正午に山頂に着いた。小さな山頂広場ではまさに三六十度の展望が得られた。真っ青な日本海、深浦方面の漁港、山頂部が雲に隠れた岩木山、そして、東から南にかけて広々と遙かな白神山は、明るい茶色にブナの幹や枝が白くまぶされたようになっていて、まさに秋の粧いだ。南には能代港が霞み、さらに遠くの海上には男鹿半島が寝そべっている。ひと当たり眺

望を楽しんでからベンチに座って昼飯を頼張る。

目の前の標柱を指差して「白神岳山頂」とはあるけど標高が書かれてないなあ、と甥に言った。甥は甥で、ここより高いところがあるみたいだよ、とガイドブックのコピーをよこした。なるほど、さつき通過した十二湖コース分岐と、この山頂の間に一二三五メートルのピークがある。ここより三メートル高い。本来はあっちの方が山頂だけれど、避難小屋や展望台のスペースのあるこつちを山頂にしたつとところか。山頂になれなかった向こうのピークが気の毒になった。

そのうち私等が追い越した四人組が到着した。皆、さつきの標柱の脇に集まり、一人が私に記念写真を頼んできたので、請われるままシャッターを押した。わざと左をあけたが、岩木山がちゃんと写っていただろうか。

十二時半に山頂を出発。再び日本海を眺めながら快調に下る。秋の色をした山の中へ潜りこんでゆく。

マテ山分岐を過ぎてからの路は、一旦南へシグザグに下り、急坂を下り終えてからは西へ緩やかに下る。

林に日が当たってきれいだつたので写真を撮った。傍らで甥も撮っていたので、葉を日に透かして撮ると意外にいいよ、逆光を狙ってみたらいい、と勧めた。

彼のデジタルカメラを確かめると、案の定、露出補正の機能がついていた。だつたら、その沢を越えたあの上の方に、黄色や橙や薄茶とか杉の緑が入り組んだり重なったりしているだろう、露出をプラスに補正してあそこを撮ってみればいい、と教えた。撮り終えて液晶のモニター画面を覗いた顔は満足げに見えた。

俺のカメラなあ、接写がうまくいかないときがあるんだよ。枝先の小さい花を撮りたいときに、後ろの草とかにピントが合っちゃうんだよな。おまえのはどうだ？ と聞くと、甥は「同じ。一眼レフとは違うからね」と言い、「叔父さんのカメラ、白黒で撮れる？」と聞いてきた。ほう、白黒かあ、と自分のカメラをいじくっていると、確かに白黒写真も撮れるようにできているのだった。モニターでみる白黒の風景は新鮮に見えた。いいこと教えてくれたなあ。

知らなかった機能を教えたり教わったりしているうちに、小さなカメラがだんだん愛機になってくる。

これまでとは違う意外な一面が見つければ、その人を見直したり、親しみが増したりするのと同じさ。

午後二時すぎ、木々の間から見える太陽はすでに傾き始めていて、ほぼ南の方向に見通せる沿岸部の上空にあつた。そして、ちょうど私らの立つ山域の南向きの斜面全体を照らしているはずだ。その陽光は、ブナやカエデの豊かな黄葉を黄金色に染めていた。

日本海は太陽を反射してこちらへ眩しい光を送つてよこしている。では、その海から来る光はどこに当たっている？ 思わず頭を背後に振つて、あたりの木々の幹や山肌を探すが、その光の当たっている様子はみえない。それは見えないはずだ。海からの照り返しと上の太陽から直接くる光とを識別できるわけはなく、山の斜面や木々全体を明るくしているのだから。

山頂を登ってから三時間で駐車場に着いた。帰り支度をしてしていると、あの四人連れが戻ってきた。声をかけると、昨日、大阪から青森空港に着き、レンタカーで深浦に来て一泊し、今日は白神岳だったし、明

日は藤里駒ヶ岳に登るのだという。ああそんなに遠くから秋の白神山地に來る人たちもいるんだ。百名山も二百名山もかなり登った人たちなんだろうなあ、などと思つていると、男性が近づいてきて、自分の山シャツの胸をつまんでみせて、同じですね、と笑つている。それではつと気がついた。私の着ているシャツと全く同じではないか。幾多ある色や柄のシャツの中から赤と黒の細かなチェック模様のこれを選んだ人間が二人、今まで同じ山に登つていたなんて可笑しくて、こつちも笑つてしまつたよ。

蝗まてがい…マテガイ科の二枚貝の総称。形は細くて長く、食用とする。蝗貝まてがい。また。音読みで「テイ」。(机上の漢和辞典から)

鳥日記（八月一九日～十一月三〇日）

佐藤 ただし

八月一九日

四時五〇分。鳥の声は聞こえない。

五時三〇分。畑に行く。堤防近くの低木からホオジロの鳴き声が聞こえる。

八月二〇日

五時三〇分。畑に行つてトマト、パプリカ、キュウリを収穫。パプリカは赤く色づいてきた。キャベツとブロッコリーの定植をする。

六時三〇分。電線に八羽ツバメが止まって静かに朝を迎えている。スズメは向かいの家の杉の木のまわりを飛び回っている。

一八時。雄物川の上空を河口に向かって帰るカラスを見かけた。約三〇羽の群れだ。

カラスは本場に規則正しい生活をしている。朝は日の出とともにエサ場に向かい、夕暮れとともに時に帰る。

八月二一日

五時。近くの裏山から鳥のさえずりが聞こえてきた。この鳥の鳴き声はもう何年も前から聞いているが、鳴いている姿をまだ見たことがない。この機会に調べてみようと思い、インターネットで「夏鳥」、「山の鳥」、「かわい鳴き声」等で検索したところ、この声の主は「イカル」という鳥だった。イカルは一〇年以上も前に仁別植物園に降りてゆくと高木に止まっているのを見たことがあった。ずっと気になっていたことが分り、すつきりした気分になった。

午前は畑に行き虎マメの収穫をした。この豆は直径八ミリ、長さ約一二ミリの豆で、クリーム色と薄茶色の模様がついている。豆の形が鳥の卵に似ていて、黒豆や米と一緒に炊飯して毎日食べている。この豆を入れると炊飯器の中が賑やかになり体にもよさそうだ。自家採取したいと思ひ試しに畑に植えてみたら、予想に反して良く実ってくれた。

八月二二日

六時。畑に続く農道でカルガモが三羽歩いてきた。スズメも約五〇羽元気に田んぼの近くを飛び回っていた。

八月二三日

四時四〇分。鳥の声はまだ聞こえない。一昨日聞いたイカルを見なくなり、仁別へ向かう。

六時。仁別ダムの通路を歩く。キジバトが二羽通路でエサをついばんでいた。

この日はイカルを見ることはできなかつたが、ダムの上流を泳ぐコイを見つけた。体長一メートルはある真鯉が三尾悠然と泳いでいた。

ヒヨドリが杉のてっぺんに止まっていた。

八月二四日

会社のドウダンの植木の中にスズメが二羽、出たり入ったりしていた。

八月二五日

五時。虫の声が聞こえる。新聞を読む。書籍の広告欄に藤田紘一郎の本が紹介されていた。「腸内細菌を味方にする生活術」として七点ポイントが書かれてい

る。その中に納豆と酢タマネギが腸内環境を改善するという項目が目にとまった。家で実践している手作り納豆とタマネギドレッシングが入っていた。

五時四〇分。会社へ早く出かける。イソヒヨドリのペアが工場の屋根に飛んできた。道路を歩くハクセキレイ。

八月二六日

七時。南東の風が強い。南大橋に向かう途中の道路を車で走行中、ミサゴが魚を掴んで飛んでいた。魚を食べるための適当な場所を探しているようだ。

七時三分。雄物川の川岸でトビが風に逆らいながら翼を広げホバリング(?)しながら、エサを探していた。

八月二七日 晴れ

今日はエダマメ収穫のため会社を休む。

九時三〇分。仲間六名で県道より山側にある、エダマメを収穫していると、カワラヒワが一〇羽群れで飛び回っていた。

一四時。エダマメ収穫作業は終了。

一四時五〇分。雄物川に近い我が家の畑から大平山を見ると約五〇羽のカラスが西の方へ帰って行く。そ

の飛び方は夕方巢へ帰って行く時の飛び方ではなく、遊んでいるような飛び方だった。

八月二八日

五時。起きて玄関の戸を開け、外の空気を吸う。家の近くの電線にハシブトガラスが一羽止まっている。部屋に戻り新聞を読みながら身体を伸ばすストレッチをする。昨日のエダマメ収穫作業のせいか体や頭が重い。

五時三〇分。みそ汁を一杯飲む。みそ汁は飲む点滴だと若杉友子さんの著書に書いてあった。

八月二九日

草刈機のVベルトを交換する。

午前中は田んぼに生えたヒエとりと畦の草刈りをする。午後もヒエとり。

一六時三〇分。軽トラックの荷台に腰掛けてひと休みしていると、隣の田んぼからかん高いホウジロの声が聞こえてきた。ホウジロは少し倒伏した田んぼに入り、エサを探していた。

八月三〇日

五時起床。新聞を読みながらストレッチをして、体

をほぐしてから田んぼへ行き、畦の草を刈る。一時間程草を刈り軽トラックの荷台に腰を下ろす。少し汗ばんだ体にヒンヤリした風が心地良い。穂をつけたイネはすっかり成長し色づきはじめた。東の方角に太平山の山並みが見える。アオサギが一羽その山並みの方へ飛んで行く。

八月三一日 小雨

五時二十分。カラスが「アーアー」と鳴く。

この鳴き方はどっちのカラスだっけと、窓の外を見ると、電柱のてっぺんに嘴の太いハシブトガラスが止まっていた。ハシブトガラスが「アーアー」や「カーカー」でハシボソガラスが「ガーガー」と鳴くらしい。雨が小降りになってきた。いつもの電線にツバメが九羽止まっている。今日は朝仕事には行かず新聞を読む。

会社に行くため車を入れてある作業小屋に行くと、米の冷蔵庫が開けっぱなしになっていた。昨日、米を出した時に急いでいて閉め忘れてしまったのだろう。大失敗。

一七時。日も暮れかけた頃、約二〇〇羽のムクドリ

の群れが勢いよく西の空に飛んで行った。空を見ながら歩いてみると工場と市道の境界にある緑地帯の脇からキジのメスが二羽道路に出てきた。こつちに気づいていないのか逃げようとはしなかった。舗装された道路をキジ達はどのように思っているだろう。

カッコウが何か忘れ物を取りに行くような勢いで東の空に飛んで行く。

九月一日

四時五〇分。サギが鳴きながら飛んで行く。

五時一〇分。カラスが二羽鳴きながら飛んできた。

布団の中で体操をしながら頭と体を目覚めさせる。

桃色の花を咲かせた隣家のサルスベリの木に、今朝はスズメたちが一〇数羽出たり入ったりしている。家のまわりを飛翔するツバメたちも今日は賑やかだ。

七時一〇分。自転車で南大橋を渡り左折して堤防を走る。ハクセキレイが尾羽を上下に動かしながら食べ物を探している。自転車に乗りながら堤防に生えた草花を見る。この無数の草花とハクセキレイなどの野鳥が持っているそれぞれの個の生命（いのち）が、ある意味で共通だと思える時がある。堤防の上を散歩する

人も犬も同じように共通のいのちを持っている。登山家のメスナーが「人間は生命力の通り道」と自伝で言ったことにもつながる。人間や犬や鳥や植物はこの地球が持っている巨大な生命力の通る道という考えは興味深い。

九月二日 曇り時々雷雨

五時三〇分。キジバトが鳴く声で目が覚める。ハシボソガラスが一羽家の近くの電線に止まっている。スズメが五羽飛びまわっている。昨夜降った雨で家の屋根が濡れている。

雨足が強くなってきた。ツバメが何度も旋回し五〇メートル離れた電線に止まった。つばさを広げたり閉じたりしている。羽を洗っているように見える。

九月三日

四時。二階の屋根から落ちる雨の音が聞こえる。

五時三〇分。カラスが鳴く。若い声だ。畑に行く途中の電線にツバメが三〇羽止まっている。チョコレート色の屋根にも一〇羽止まっている。スズメも飛んでいる。

よく見ると頬に斑点のあるものもないスズメがいる。

斑点がないのは最近生まれられた幼鳥かもしれない。

畑でTさんからパブリカのことをいろいろ教えてもらった。

九月四日

五時起床。田んぼの畦の草刈りに行こうと軽トラに草刈り機を積んだところで雨となった。今日は草刈りを中止にしようかと思つたが、思い直して田んぼへ向かった。草刈りをやっている途中で雨が強くなったが続けた。以前、雨の日の休日に雄和の道路を車で走っていた時、道路脇の田んぼで草刈をしている人を見かけ、こんな雨の日の休日に草を刈るなんて随分まじめな人だと感心したことがあつたが、今の自分のこの姿を見たら、人はやはり同じように思うだろうか。こっちはもうすぐ始まる稲刈りに間に合わせようと、止むを得ずただやっているだけなのだが。

草刈を終えて家に帰ると電線に止まっていたカラスが「アーアー」と鳴いた。

九月五日

五時起床、田んぼの草刈りをしていると、毎朝散歩をしているYさんが立ち寄り、田んぼのことや家族の

近況について話をする。Yさんは親父と小学校の同級生だから今年八二才。毎朝この時間に歩いている。

今日は休日のでエダマメ収穫作業に行く。夜は消防団の寄り合いがあつた。

二二時。お開きとなり、新屋から雄物川の堤防を歩いて家に帰る。途中、「ビューイビューイ」という鳴き声を聞いた。チドリかシギの鳴き声だ。

九月六日

五時三〇分起床。ノスリが一羽農道を低空飛行する。八時三〇分〜一時までエダマメの収穫作業。

午後から相棒と出戸浜にシギを見に行く。メダイチドリが六羽波打ち際でエサを食べていた。昨晚聞いた「ビューイ」という鳴き声をこころでも聞いた。

九月七日 曇り

五時起床。軽トラに草刈り機を積んで田んぼに行く。午後は田んぼのヒエとり。

一八時三〇分。日も暮れヒエも見えなくなつてきたので作業を終える。軽トラックに半分ほど取つたヒエを積んで帰った。帰る途中、ライトに照らされた農道に鳥がいた。タヒバリか。

九月八日

五時起床。田んぼの畦の草刈り。

アオサギ一羽。ホオジロ数羽が田んぼのヒエに止まっている。スズメ二〇〇羽。

九月九日

七時一〇分。小雨の降る朝、雄物川に掛かる鉄橋付近の岸辺にアオサギが六、七羽首をすくめて休んでいる。

九月一〇日

朝焼けがまぶしい。朝日が雲を照らし鮮やかなコントラストを描いている。今日は会社を休んで親父を病院に連れてゆく。

隣家の庭の植木にスズメが約三〇羽やってきて賑やかだ。その中に白っぽいスズメが一羽混ざっていた。アルビノか。スズメの動きを見ると、躊躇するということが全くないように見える。彼らには全く悩みというものがないように思えてくる。

午後はヒエとり。

九月一日

昨日の雨で茨城や栃木で被害が大きかったようだ。

夕方、ムクドリが群れが曇り空の中を西へ飛んで行く。

九月一二日 曇り

五時〜七時まで田んぼのヒエとり。とったヒエは軽トラツクの荷台に軽く一杯になった。

ダイサギかチュウサギが雄物川の堤防の辺りを西に向かつて飛んで行く。ツバメが二羽田んぼの上を飛び、時々翻って虫を捕っている。堤防の上を走っているとカワラヒワが数羽飛び立った。

九月一三日 曇り

五時一〇分起床。新聞を読んでからヒエとりに行く。七時三〇分、ヒエを積んで軽トラで農道を走って行く。スズメやハクセキレイ、アオサギ、キジバトがいた。田んぼのイネよりも背丈が伸びたヒエの穂にスズメが止まっていた。スズメやカワラヒワなどの小鳥を見るといつも新鮮な気持ちになる。

雨で農作業は休み。仁別の植物園でサギ草を見た。

九月一四日

四時五〇分起床。部屋の中はまだ暗い。田んぼの畦の草刈りも終わりに近づいてきた。

(鳥の記録なし)

九月十五日 曇りのち晴れ

今朝は気温が下がって肌寒い。靄が深く立ち込めている。スズメが一羽鳴いた。

一七時三〇分。二羽のカラスが電線に止まっている。透き通るような青い秋の空。二羽のカラスは四〇センチ程離れて止まり、じつとしている。まるで今日一日を思い返しているように見える。

九月一六日

ツバメを最近見かけなくなった。最後に見かけたのは一三日だった。ついに南に飛び立ったか。

九月一七日 晴れ

五時二八分起床。キジバトの鳴き声。晴れ渡る青い空をカラスが二羽、雄物川の上空を上流に向かって飛んで行く。朝ということもあり羽ばたきにも力強さがある。

工場でハクセキレイが直ぐそばを歩いている。こちらが立ち止まると向こうも止まって、こっちを見ている。

九月一八日 雨

昨夜、安保法案が参院で強行採決された。

この法案に反対する国民や国会周辺で毎日繰り返されたデモには全く聞く耳を持たないという印象だ。

一八時二〇分。田んぼのヒエをとり終えて、暗くなった田んぼ道を軽トラで走っていると、鳥が一羽飛び立ち、道路の先に舞い降りた。車を止めて見ていると、そこらなかなか飛び立たない。「コシギ?」

九月一九日 小雨

終日田んぼのヒエとり。ここ二週間続けている。今から三〇年も前になるが、親父もひとりで田んぼのヒエをとっていたことを思い出す。

稲刈りの頃になると見かける、ノビタキが田んぼにやってきた。スズメ大の小鳥で、オスは頭が黒いので見分けがつきやすい。

昨日見かけたコシギだと思った鳥はタヒバリだった。今日は三羽見かけた。

一六時。ヒエとり終了。

一六時九分。ツバメが四羽田んぼの上を自由自在に飛び回りエサを捕っている。

九月二一日 薄曇り

朝の風が家の中に入ってきて、肌に気持ち良い。今

日は稲刈り初日。五〇aの稲刈りをした。

(鳥の記録なし)

九月二二日 曇り

稲刈り二日目。朝靄が深い。

一七時三〇分。南大橋から見える中州の淵に白いサギが六羽すつくと立っていた。同じく中州の近くにカモも数羽着水した。カモがやってきた。

春の鳥や夏の鳥が飛び立つ頃、冬鳥がやってくる。

九月二三日

五時三〇分起床。隣の家の屋根と庭木の間をスズメが二〇羽行ったり来たりしている。稲刈り三日目。糶摺りも行う。米の質はまあまあだった。水分一五・二%

九月二四日

会社の職場の先輩Mさんが亡くなったことを新聞で知った。

(鳥の記録なし)

九月二五日

五時三〇分。カラスの鳴き声で目を覚ます。

鳴き声の主は電柱に止まっているハシボソガラスだ。

二四日に出荷したコメは全て一等米だった。

九月二五日

昨日ハシボソガラスが止まっていた電柱に今日はハシボトガラスが止まっている。隣の家の庭木にはスズメが止まっている。今日の天気予報は雨なので、稲刈りは行わずに糶摺りをしようと思っていたが、作業を手伝ってくれているSさんの助言もあって稲刈りを始めたがやはり雨になった。

ノビタキ二羽。

九月二七日

稲刈り五日目。

六時二七分。キジバトが鳴く。

六時三五分。昨日刈り取って乾燥させた糶を乾燥機から貯蔵庫に移し替えて、家に戻ろうとして交差点で信号待ちしていた時、ヒヨドリが約三〇羽南西方向にゆっくり飛んで行った。ヒヨドリの渡りが始まった。

九月二八日

午前中、茨島の会社でミサゴがエサを掴んで飛んでいる姿を見る。海から約二キロ離れたこの辺りでミサゴを見かける時は魚を捕まえていることが多い。

午後から雨となり稲刈りは中止して籾摺りをする。

九月二九日 曇り時々晴れ一時にわか雨

一二時一〇分。会社でキジバトが垣根近くの道路に舞い降りた。そのすぐ近くにキジのメスがじっと立っている。よく見ようと一〇メートル位まで近づいたが逃げなかった。

九月三〇日

日差しが暖かかったので昼休みに旧雄物川にある工場の取水口まで歩く。川の水を吸い上げているポンプ小屋の裏手に回り、取水口の近くまで行くと土砂が堆積して川底が見えるところがあった。陽の光は川底まで届き、堆積した砂に一〇センチ程の小魚が三匹へばりついていた。子供の頃ゲンジと呼んだハゼだ。体のわりには頬のエラが大きく、釣ってもあまりうれしくない魚だった。その魚の近くをメダカに似た小魚が一〇匹、川面近くを泳いでいた。

ポンプ小屋から工場に戻り、道路脇にあるコンクリートの床に腰をおろし、仰向けになった。近くの垣根の方角からヒヨドリがしきりに鳴く声が聞こえてきた。

一〇月一日

五時二九分。ハシボソガラスが鳴く。今朝は天気が良い、スズメ達が隣家の庭木に集まっている。西側の電線ではムクドリが羽繕いをしている。

五時四〇分。作業小屋に行き、昨日刈って乾燥させた籾を貯蔵庫に移す。

一〇月二日

五時四五分。カラスが鳴く。強風。爆弾低気圧がやってくる。だが、強風の日もカラスはやってくる。勤勉というか、いのちがかかっているというか、カラスと比較すると自分は恵まれている。

夕方、暗に帰るカラスを見かける。飛び方を見ると幾分疲れているようにも見える。他にムクドリ二〇〇羽、ハクセキレイ三〇羽。

一〇月三日

昨日に引き続き強風。昨日と同じ時間にカラスが鳴く。

作業小屋として借りている家の母屋に住んでいる若夫婦の友達が、子供を連れて栗拾いに来ていた。小学校の低学年の子供たち四人は、昭和の前半に建てられ

たと思われる、この家の広い座敷の中を走り回ったり、我々がやっている糶摺り作業を見に来たりして楽しそうだ。

一〇月四日

五時四七分。カラスが鳴く。

ワールドカッププラグビー。日本はサモアに快勝。

ツバメが三羽田んぼを飛んでいた。まだツバメがいた。

一〇月五日

五時五分起床。冷たい空気が流れ、朝靄が広い水田に立ち込めている。Tさんが愛犬の柴犬を連れて散歩している。

自転車で作業小屋まで行き、乾燥が終了した糶を貯蔵庫に移す。

七時、ムクドリが家の東側の電線に九羽止まっている。西側には七羽。

TPP大筋合意の記事が新聞に載る。TPPについても詳しいことはよく分からないが、この協定合意により日本の食糧自給率の低下を懸念する記事が目にとまった。

一〇月六日

今朝は冷え込んだ。いつの間にかすっかり秋になった。

六時五分。ムクドリが約三〇羽家の近くの電線に止まっていた。スズメ五羽、ヒヨドリ一羽、ハシブトガラス二羽も見かけた。

一七時五二分。御野場方向から南大橋を軽トラで走っている時、夕闇迫る西の空にV字型の黒い影が東に向かって飛んで行った。今年初めて見るハクチョウの群れだった。

一〇月七日

三時四〇分。星空。東の空に輝く金星。

四時一〇分。起床。

七時二五分。ヒヨドリが約三〇羽、家の近くを南西の方向に飛んで行く。この地に来る鳥、南へと去る鳥、マガン一二羽を豊岩の田んぼで相棒が見つけた。エナガも一二羽。

一〇月八日 曇り

五時三〇分、乾燥させた糶を別の貯蔵庫に移す時に詰まらせてしまった。復旧に約一時間。

相棒が見たというマガンを見に行つたが今日はいなかつた。途中、エナガの「トゥルルー、トゥルルー」という鳴き声とともに鳥の姿を四羽見た。

台風二三号の影響で次第に風が強くなつてきた。

一〇月九日

五時三六分。カラス鳴く。

アオサギを一羽見かけた。

一〇月一〇日 晴れ

稲刈り最終日。稲刈りと糶摺りをする。

次つぎとヒヨドリが飛んできて南の方角へ飛んで行く。

三〇羽、四〇羽の群れから、二羽、三羽のグループもある。

一〇月一日 曇り時々雨

雄和の低温倉庫近くのため池でカモが数羽泳いでいるのを見かけた。ヒヨドリの鳴き声が賑やかだ。

昼近く、千秋公園を歩く。ハシボソガラスが池で水

浴びをしていた。シジュウカラの鳴き声も聞こえた。

一〇月一二日 雨

糶摺り作業終了。

雄和の倉庫でスズメが雨宿りしていた。ハクチョウ

が一羽飛んでいる姿を見かけた。

一〇月一三日

五時四〇分。カラスの音が聞こえる。

五時五〇分。シジュウカラの音が聞こえる。

一〇月一四日

父の通院のため会社を休む。

六時。ヒヨドリがしゃがれた声で鳴いている。

六時五〇分。雄物川河口近くの川岸でカワラヒワが

低木のでっぺんに止まって鳴いている。アオサギ二羽

ダイサギ二羽、カワウ三羽、カワアイサ♀三羽、カル

ガモ二羽。

一〇月一五日

〇時三〇分。暗い雲の間から星が輝いている。ハク

チョウがカン高く鳴きながら雄物川の上空辺りを南西

に飛行している。

六時二〇分。家の二階の窓からハクチョウが七羽、

雄物川の上空を飛んで行くのが見えた。雄物川が飛行

ルートになつていようだ。

豊岩の田んぼにハクチョウが七六羽(相棒確認)。

一〇月一六日

一〇月一六日

一〇月一六日

ヒヨドリ一〇〇羽南へ。ハクチョウ八四羽（豊岩の田んぼで相棒確認）。

一〇月一七日 晴れ

自転車で会社に行く。雄物川の上空を河口に向かつて飛んで行くカワウの群れと上流にむかつて飛んで行くハクチョウやヒヨドリの群れが行き交う。ハクチョウ九九羽（豊岩の田んぼで相棒確認）。

一〇月一八日

河辺・大沢の頭首工。カワガラスが川の中程にある、水位を調節する頭首工に止まっていた。この近くに巣があるようだ。

アオサギ二羽、カワセミ一羽、ハクセキレイ二羽。

祖谷峡。カワガラス一羽。

一〇月一九日

カラスが良く鳴く。ヒヨドリが約四〇羽、南へ飛んで行く。

一〇月二〇日

朝、スズメがサルスベリの木と小屋の軒先を行き来する。ハクチョウ一一羽。

一〇月二一日

五時五〇分。ヒヨドリが一羽隣の家の枝垂れ桜の木に止まっている。

隣の家に人が住まなくなつて二年になる。居間のカーテンはずつと閉じられたままだ。

一〇月二二日

六時二一分。ハシブトガラスが電柱に止まつて鳴く。六時四五分。ヒヨドリが一〇〇羽以上連なり南へ渡つて行く。隣の家のサルスベリの木にヒヨドリが一羽、スズメ達と一緒に飛びまわっている。

一〇月二三日

六時五〇分。ハクチョウが一二羽豊岩の田んぼに飛んできた。ヒヨドリとスズメを今日も見かけた。

一七時三五分。会社でトラブル発生。集塵機の減速機の取り付け部が破損したという知らせ。この減速機は今朝交換したばかりのものであった。破損の原因が分からない。

一〇月二四日

六時。隣家の落葉したサルスベリの木にヒヨドリが鳴きながらやってきた。直ぐに飛び立つたと思つたら、次の瞬間にそこにスズメがやってきた。

六時二〇分。ハシブトガラスが鳴く。

会社のトラブルの原因が少し分かってきた。

今回の故障対応は良かったのか、悔いが残る。

一〇月二五日

南部地区消防研修会無事終了。

ムクドリが電線に止まっていた。

一〇月二六日

六時。風がある。カラスが約五〇羽群れになって飛んできた。ハクチョウが二〇〇羽程、次々と豊岩の田んぼにやってきた。

スズメが二羽隣家の庭木で元気に遊んでいる。茨城に住む叔母が牛島の叔母夫婦と一緒に家に来た。弟も来て賑やかなひと時を過ごした。

一〇月二七日

五時五八分。ハシブトガラスが鳴く。

六時一〇分。ヒヨドリとスズメが隣家の庭にやってきて鳴く。

七時一〇分。北西の風が吹いている。南大橋を自転車で走っているとハクチョウが二〇羽、雄物川の上空を上流に向かって飛んで行った。ハクチョウにはこの

川はどのように見えているのか。

川の中州近くにカモが一五羽まとまっていた。コガモかもしれないが離れているので良く分からない。

一〇月二八日

五時五〇分。ヒヨドリとスズメが隣家の庭で鳴く。

六時五分。カラスも鳴く。

北西の風が強い。今日も自転車で南大橋を渡る時、ハクチョウが橋の上空を飛んで行った。

自転車で帰宅途中の二〇時頃、仁井田にある工業用水の沈砂池に鳥の姿が黒く見える。四、五羽のカモと思われるグループが何組かいた。

一〇月二九日

今日はカラスが鳴かない。起床して廊下の窓を開けるとヒヨとスズメが鳴いていた。

七時。二〇〇〜三〇〇羽のカラスの群れが上昇気流に乗ってゆつくりと舞っている。

一〇月三〇日

朝、隣の桜の梢にスズメが一羽止まっていた。

七時四〇分。会社の正面玄関のサツキの植木にシジュウカラが二羽。

一〇月三十一日

六時二五分。カラス鳴く。隣家のサルスベリの木は葉もすっかり落ちて木の枝が見えるようになってきた。ヒヨドリが一羽止まっていた。サルスベリの近くに赤い実をつけているのはナナカマドの木か。スズメが四羽、羽繕いをしていた。

今日も北西の風が強く、雄物川の上空を飛んでくるハクチョウの飛行が崩れていた。

ハクチョウの群れよりもさらに上空をアオサギが南へ飛んで行く。

十一月一日

今日から秋の防火週間。七時に消防のサイレンを一分間鳴らす。

午前中。タマネギの苗を移植する。まず肥料や土壌改良剤をほどこした畑をトラクターで耕起し、畝を立てる。次にタマネギの苗を苗床から取り出し、両手の平に収まる程度に藁で束ねる。束ねた苗を畝立てした場所に運ぶ。苗は一二〜一五センチ間隔で植える。畝に人差し指と中指の第二関節が入るくらいの穴を開け、その穴にタマネギの苗を入れ、周りの土で隙間を埋め、

両手で土を押さえる

昼までに母と二人で約千二〇〇本の苗を植えた。しばらく畑に来ないうちにプチベールの背丈が大きくなっていた。

(鳥の記録なし)

十一月二日

いつもの朝のようにスズメやカラスが隣の庭木を行ったり来たりしている。ヒヨドリが昨日と同じくサルスベリの木に止まってこつちを見ている。

十一月三日

七時三〇分。ハクチョウが次々と田んぼにやってくる。

八時三〇分。大豆の選別作業に行く。転作作物として田んぼに植えた大豆は機械で刈り取り、乾燥機で適正水分にした後、選別機に掛けて袋詰めする。大豆は大、中、小に選別されるが、今年は大が六〇%、中が三〇%、小が五%、屑が五%位の割合だった。

朝から昼まで機械は休みなく動き、一五時前に作業は終了した。

一四時。作業の合間に空を見上げると、秋晴れの青

空が見えた。トビが三羽、輪を描きながら空を舞っていた。そのトビのはるか上空をタカが南の方へ飛んで行くのが見えた。タカの渡りかと思ったが、識別できる知識がないため、そのタカの種類は分からなかった。

一月四日

六時五〇分。ハシボソガラスが次々と黒い帯のように群れて飛んでくる。数百羽の群れだ、今日はどこへ行くのか。

一月五日 晴れ

深い靄の中を今日も多くのカラスがやってくる。ハクチョウも次々と飛んでくる。

黒と白のコントラストと相棒が言った。

一月六日

(鳥の記録なし)

一月七日

スズメが五羽隣の庭木に止まっている。日がな一日この辺で過ごしているのかな。

午前中、雄和の母の実家にもち米を受け取りに行く。来年九〇歳になるこの家の伯母(伯父の妻)が作業小屋で米を精米していた。少し話をする。

家に戻ってから障子を貼り直したり、居間の絨毯を買いに行ったりして冬支度をした。

一月八日

七時。隣の庭木にはスズメが一〇羽程止まっている。その真ん中にヒヨドリがやってきてしきりと鳴いている。

土崎の介護施設で暮らしている伯母(母の姉)に会いに行く。伯母は今年八六歳になる。最近足腰が弱くなって車いすを使うようになり、今年になってこの施設に入ったが、話すことはしっかりしていて、記憶力は俺よりもずっと良い。田んぼのことや米作りについて話をし、一時間程お邪魔して帰った。

一月九日

六時。外はまだ薄暗い。今日は燃えるゴミを出す日。カラスはまだやって来ない。ヒヨとスズメは今日も隣の家の庭にやってきた。

来年の米の種粃をJAに注文する。あきたこまち二〇キロと、めんこいな二五キロ。来年は今年作付した面積の六割程度を予想してのことだ。

一月一〇日

県道沿いのビニールハウスの近くの田んぼにハク
チヨウ約三〇〇羽、マガン一〇羽。

会社でイソヒヨドリを見かけた。建屋の脇の配管
ラックに止まっていて、そばを通りかかっても逃げよ
うとしない。人間をあまり怖がらない性格なのか。

一月一日 小雨

朝、隣の庭木にスズメが一〇羽止まっているのを見
ながら歯をみがく。

一月二日

朝、気温が下がり、靄が立ち込める。

六時一五分。今日もスズメは隣家の庭にやって来た。
一六時一〇分。日は傾き会社の体育館の壁を柔らか
く照らしている。体育館のつぺんでハシボソガラス
が一羽、雄物川の方を見ていた。今日一日を振り返っ
ているようにも見えた。

一月三日

二階の廊下の窓から見える電線にスズメが九羽きれ
いに並んでいる。一件おいて隣の作業小屋の軒先を瞬
としているスズメ達がここでミーティングをしている
ように見える。

七時、気温二℃。自転車で南大橋を渡る。

初冬の朝の日差しを浴びて雄物川の川面から湯気の
ような靄が立ち込めている。

橋の照明灯にハシボソガラスが二羽止まっていた。

一月四日 曇り 風が強い

六時三〇分。薄暗い朝。スズメが今日も木に止まっ
ている。

八時一五分、大阪伊丹空港行きの飛行機に乗る。今
日と明日は消防団の旅行で大阪に行く。

離陸後まもなくして、葉を落とした広葉樹林と緑の
針葉樹林の山あい、きれいに稲刈りを終えた田んぼ
を俯瞰することができ、鳥の気分を味わった。

大阪市内でミサゴ一羽、カワウ二〇〇羽を見た。

一月五日

(鳥の記録なし)

二二時。帰りも飛行機で無事到着した。

一月六日 曇りのち晴れ

気温一七℃。この季節としては温かい。

朝、ダイサギが羽を広げて飛んできた。スズメとヒ
ヨは今日も元気だ。

十一月十七日

六時五〇分。赤い実をつけたナナカマドの木にヒヨが一羽止まっている。そこにスズメが急降下して枝に止まった。ハシブトガラスが二本の電線に寄り添って止まっている。

工場の敷地内に植えられた桜の木を見る。木の枝についている葉が一枚一枚、色付き方が違う。どちらかというとき枝の先端部が赤みを帯びていて、幹の近くは緑が多い。葉は一枚二枚と落ちてゆく。

十一月十八日

父を病院に連れてゆく日。スズメが寒さを凌ごうとしか、体をぶつくりさせて木の枝に止まっている。

十一月十九日

六時二三分。スズメが鳴き始めた。

十一月二十日

六時五〇分。ヒヨの声が聞こえる。

十一月二十一日 曇り時々晴れ一時小雨

やや風が強い。カラスが二〇〇〜三〇〇羽風に乗って舞っている。この季節になるとみかける光景だ。遊んでいるようにも見える。

午後、作業小屋を片付ける。

十一月二十二日

午前中はネギやダイコンの収穫をするため畑に行く。帰省した二男夫婦も一緒だ。午前中に作業終了。畑でカラスの輪舞を見る。

十一月二十三日

二羽のヒヨが隣家の庭の木を行ったり来たりしている。今日もカラスが風に乗って舞い上がり、また急降下して風とたわむれている。

十一月二十四日 曇り時々雨

朝になっても夜が明けない。車で出勤する。朝からずっと鳥の声を聞かない。

(鳥の記録なし)

十一月二十五日

自転車で会社に行く。雄物川河川敷のゴルフ場近くにある中州にハクチョウが約二〇〇羽いた。

十一月二十六日

(鳥の記録なし)

十一月二十七日 強風、大荒れ

アトリオンの音楽ホールで行われたパイプオルガン

によるバツハの曲を聴きに行つた。

(鳥の記録なし)

一月二八日

昨日の強風で、隣家のテレビアンテナの支柱が真ん中から折れ、斜めに傾いてしまった。その傾いたアンテナにスズメが七羽きれいに並んでいた。

午前中はインフルエンザの予防接種をしにK医院に行く。午後は家のキツチンの排水口の修理をした。

一月二九日 晴れ 南西の風が強い

九時三〇分。雄物大橋の新屋側に車を置き、川沿いを歩く。カワウ二五羽、マガモ二〇羽、オナガガモ六羽、カルガモ五〇羽、カワアイサ二〇羽、カモメの仲間一〇羽、モズ一羽、キジ一羽。ハシボソガラス三羽。カワアイサの足は赤く、川の水が冷たそうだ。この鳥を追ってオオワシがやってくる。

一〇時三〇分。秋田市河辺の戸島にある堰堤に行く。アカゲラ一羽、カワアイサ六羽、カルガモ二八羽、ハシボトガラス三〇羽。

雄物川河口付近で見かけるガラスは殆どハシボソガラスで、戸島の辺りはハシボトガラスだった。ハシボ

ソは街に多く、ハシボトは田舎に多い。豊岩は田舎だが比較的街に近いので、ハシボトとハシボソが混在している。

一月三〇日 曇りのち雨

朝のうちは時々晴れ間もあったが、午後から雨となった。会社の敷地内にある桜の木はこの二週間で葉がすっかり落ち、木の枝ぶりがはっきり分かるようになった。枝の先にはすでに木の芽が出来ていて、来年に備えて動き出しているように思えた。

葉が落ちたことで桜の木の芽を好物とするウソにとっては食べやすい状況となった。

一四時四〇分。空を見上げるとハイタカと思われる鳥が翼をゆっくり羽ばたかせ、飛んで行った。

雑記 (2)

横山 仁

《日本における表現の自由の規制を調べるために来日予定のデービッド・ケイ国連特別報告者が、日本政府の要請で訪日を延期せざるを得なくなっただけ。すかさず国際人権NGOが「日本政府の拒否に懸念を覚える」という声明を発表した。》(天木直人のメールマガジン2015年11月25日第966号より)

どうやら、選挙前に来られると、フアリストたちには都合が悪いらしい。もっとも、Abe-chan (©成田豊人) とずぶずぶのトルコではやっちゃっています。《トルコ、政府によるISへの武器供給を報じた記者2人が逮捕 (『スポーツニクス』11月27日)》

*

ISのことを書くこうとして頭を悩ませていたら、ちょうど飯山一郎氏が簡潔にまとめた文がネットに載ったので、紹介する(「◆2015/12/04 (金) 情報発信力とは声の大きさだ!」より)。もっとも、小生のネタ元は、飯山一郎氏などだが。

《プーチンはネットを使って、トルコのエルドアン大統領一家とISISの「友好関係」を暴露しまくった。破壊専門のテロ集団・ISISとエルドアン一家が、盗掘原油の販売と武器の販売というテロ・ビジネスを協同して行っている実態。この真相情報を、プーチンはネットを活用して世界中に拡散した。》

プーチンの情報戦略と暴露戦術によって、エルドアン大統領一家の信用は、ガタ落ち。大暴落。プーチンは、先ず情報戦において、対エルドアン戦で大勝利したのである。

それにしても…、プーチンが暴露した「トルコとISISの友好関係」は、大変な“ビジネス・モデル”だ。↓こんなふ〜だ。

先ず、ISIS がシリアの街々を滅茶苦茶に破壊しながら、シリア国内を内乱・内戦状態にする。

次に、内戦のドサクサに紛れてシリアの油田から原油を盗掘し、盗掘した原油は陸路、トルコに運ぶ。

その盗掘原油は、エルドアン一家が国内や海外に売ってボロ儲け。

「産油国」の ISIS (イスラム国) もボロ儲け。

その儲けで、武器・兵器を買って、シリアと戦争を続ける。

シリアのアサドを打ち負かすことができれば…、シリアはトルコのモノになる！

「エルドアンと ISIS のコラボ・ビジネス」は、放火犯が火事場ドロボ〜をヤルのに似て、まさに戦争ドロボ〜だった。

この犯罪行為を、プーチンは徹底的にツツした！お見事！》

『スプートニク』2015年11月28日より。

《トルコのF-16機がロシア機を撃墜したのは、テロ組織「イスラム国(IS)」戦闘員らがシリアからトルコ

に派遣していた石油タンクローリー数百台を破壊されたことへの報復だ。石油はすべてエルドアン大統領の息子が所有する石油会社が購入していた。シリア情報大臣オムラン・アツゾビ氏がリア・ノーヴォスチの取材に対して述べた。

「石油はすべて、エルドアン大統領の息子が所有する会社向けに送られていた。ロシアがISの石油インフラを攻撃しだし、すでに石油タンクローリー500台あまりが破壊されたことで、トルコは不安を覚えている。これら車両は石油とあわせて小麦や歴史的文化財も運んでいた」と同氏。

Su-24 撃墜はロシア機がトルコを領空侵犯したためだ、どのトルコ側の主張について同氏は次のように述べた。

「生還したロシア機乗員が言っているように、警告もなしにシリア上空を飛行中の航空機が攻撃されたというのが事実なら、それはトルコが嘘をついていることの動かぬ証拠だ。トルコは当初、10回にわたり警告を行った、と発表した。のちに、ロシア機は17秒間トルコ領空に入っていた、と発表した。17秒間で10



「上のは、COP21 が開かれるパリ北方の街頭に掲げられたポスター。かなりカネをかけて作っている。一晩中見られる照明つきで親切だ。安倍晋三、フランスのパリで恥さらし？ いや、これは日本の恥だ。いやいや、日本は早く潰れて、国際管理下に置かれたほ〜がE〜！ そうなれば、日本の子どもたちが助かる。はやく逝ね！ 安倍晋三。」(2015/12/01 (火) 飯山一郎氏のHPより)

日本のメディアでは、報道されないかもしれないので、紹介しておく。

回も警告を行うのは不可能だ。技術的に、どうやっても不可能だ。》

盗掘原油は、イヌラエルや日本などに売られているらしいが、11月末に、愛知県でガソリンが1L 85〜87円になったことも、これに関係していないだろうか。ISが使っているトラックは、トヨタだから。

《ところで、ISが広く知られるようになったのは、2014年1月にフアルージャで「イスラム首長国」の建国を宣言し、6月にモスルを制圧してからだろう。モスル制圧の際にはトヨタ製の真新しい小型トラック「ハイラックス」を連ねてパレードしているが、このパレードをアメリカ軍は攻撃しなかった。》(「櫻井ジャーナル」、「阿修羅」による)

また、「日刊ゲンダイ」(11月28日)によれば、「空爆1回1億円特需でほくそ笑む各国軍事産業」とあった。「国産旅客機MLRの初飛行に成功した三菱重工業をはじめ、4社が入った日本勢は国別で見ると世界

7位。米国のお先棒を担ぐ安倍政権が武器輸出三原則を撤廃させたことで、商機は広がっている。」

安倍首相の兄弟が武器産業と関係していると前に見たことがあったので、ネットで探していたら、こんなのが見つかった。(http://rap-neo.com)

《ご存じない方も多いかも知れませんが、実は安倍晋三の兄である「安倍寛信」は三菱商事の取締役であり、この三菱商事のグループ会社である三菱重工は日本屈

指の武器製造メーカーです。また、この三菱商事は昔から皇族とも深い関わりがあります。(見出し略)つまり、安倍の兄は皇族と結びついた「死の商人」なのです。そして、安倍晋三は首相という肩書きを使つて、兄の勤める会社の作った兵器を世界各地に売り込んできました。詳しくは以下のリンクをご覧ください。》(注、「三菱重工を分析する」のブログ(日本共産党三菱重工広製支部 経営分析チーム)がリンクされています。)

あとがき

◆白神山地付近で何度か確認されているニホンジカ。山の草木が食い荒らされれば、土壌流出をはじめ多大な被害に繋がる。奥羽山脈にだって同じ危機が。しかし、どんな対策がとれるのか。(K)

◆鳥のことを書いているが、鳥のことにだけ関心があるわけではない。

ただ、人間にとって最も身近な野生動物といわれる野鳥から、教えられることが多く、鳥を見ない日は無いといってもいい。この習慣はずっと続きそうだ。(T)

◆詩がもっとほしい、という声もきこえる。いずれ…、と。(J)

◆小誌創刊に対し多くの方から私信を戴いた。有難いことである。

Kは山行の様子と感動をたっぷりと伝え、Tは野鳥の会会員としての眼で淡々と日常を描き、Jは社会に視点を置いた私感を凝縮させる。四人とも異なる姿勢・視点を以って、まずは第2号無事発行。(B)

「海市」 第2号

2015年12月20発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方